

## 頭取メッセージ



取締役頭取（代表取締役） 土井 伸宏

### ■平成29年3月期について

#### ●金融経済環境

平成29年3月期のわが国経済は、未曾有の金融緩和政策が続く中、雇用・所得環境の改善の下でも根強い節約志向が続いたほか、円高進行や海外経済の減速による輸出の伸び悩みなどから、停滞感を強める中でスタートいたしました。しかしながら、期後半からは、米国の政策運営に対する期待などから円安へと反転し、海外経済の持ち直しとともに輸出主導で企業業績が底固く推移したほか、堅調な公共投資や、株高・都市圏での地価上昇による資産効果も下支えとなり、個人消費の伸び悩みという課題を残しつつも、全体としては緩やかな回復へと向かいました。ただ、企業の設備投資についてはなお慎重姿勢が続き、仕入価格上昇や人手不足の深刻化、欧米の

政治情勢に対する懸念など、先行きに対する不透明感も高まる中で期を終えることとなりました。

#### ●平成29年3月期決算

こうした中、平成29年3月期につきましては、第5次中期経営計画「ビジョン75 いい銀行づくり」（平成26年度～平成28年度）の最終年度として、計画に掲げる営業戦略、人材戦略、業務改革戦略に沿った諸施策を推進いたしました。

その結果、個人預金および法人預金ともに堅調に増加し、預金および譲渡性預金の合計で期中3,837億円増加して、期末残高は7兆5,959億円となりました。

貸出金は個人・法人向けともに積極的な対応に努めました結果、期中3,805億円増加し、期末残高は4兆9,869億円となりました。

# 「お客さまの期待に応える京都銀行」が 私たちの目標です。

また、収益面は貸出金や有価証券の運用利回りの低下による厳しい環境が続きましたが、純利益は目標としていた175億円を上回る結果で第5次中期経営計画を締めくくることができました。

## ■第6次中期経営計画

### ●「Timely & Speedy」

～お客さまが必要とされる

サービスを速やかに提供いたします～

金融機関を取り巻く環境につきましては、少子化・高齢化の進行やさらなる金融緩和政策による貸出金利回りの低下、あるいはFinTechに代表されるようなIT化や生活様式の変化など、今後ますます厳しく、また大きく変化していくことが予想されます。

こうした中、平成29年4月からは新たに、第6次中期経営計画（平成29年度～平成31年度）をスタートさせております。

本計画をスタートさせるにあたり、「お客さまの期待に応える京都銀行」という「ありたい姿」を再確認いたしました。

そして、「お客さまの期待に応える」ためには、サービス業の原点に立ち戻り、どうやってお客さまとのつながりを強めていくか、どうやってお客さまの求めているものに応えていくかを徹底的に見つめなおす視点を普段から持ち、最適なタイミングを逃さぬようスピード感をもって行動に移していくことが何よりも重要である

と考え、本計画を「Timely & Speedy」と名付けました。

第6次中期経営計画「Timely & Speedy」では、「コンサルティング機能の発揮～つなげる～」を活動のメインテーマに、広域型地方銀行としてさらなる成長・発展を目指してまいります。

### ●コンサルティング機能の発揮

個人のお客さまには、「未来に繋げる、親から子・子から孫へ繋げる」のコンセプトのもと、金融運用商品のご提案・アドバイスなど、ライフプランに応じた資産形成のお手伝いに注力してまいります。

一方で法人のお客さまには、「お客さま同士を繋げる、事業拡大に繋げる、海外へ繋げる、次世代に繋げる」のコンセプトのもと、事業の拡大や承継のご支援など、当行の強みである店舗ネットワークを活かしたきめ細かいサービスで対応し、質の高い金融仲介機能を発揮してまいります。

そして、これまでのカルチャーや体制・仕組の革新にも臆さず速やかに取り組み、京都銀行グループ各社との緊密な連携のもと、多様な金融サービスをご提供することで、お客さまと地域社会からのご期待にしっかりお応えしてまいります。

引き続き格別のご支援、ご高配を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。